

令和 7 年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	47	学 校 名	静岡県立藤枝西高等学校	記 載 者	和田めぐみ
------	----	-------	-------------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

（「評価」：A 達成されている B だいたい達成されている C あまり達成されていない D 達成されていない）

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評価	関係者御意見
ア	（人間性の育成） 行事、生徒会活動、部活動等を通して、 自己有用感を感じ、自己肯定感を高められる教育活動を実現する。	・学校行事、生徒会活動、部活動に積極的に取り組む生徒 80%以上 ・生徒を承認し、励ます声掛け（ボイスシャワー）を実践する教員 90% ・生徒に対する言葉遣い、授業のユニバーサルデザイン化に配慮している教員 90% ・学校生活で自分に自信を持てたことがあったと感じる生徒 80% ・国際的視野に立ち、物事を考えられるようになったと感じる生徒 70% ・読書活動が有意義であると感じる生徒 70%	A	A	・学校行事、生徒会活動、部活動に積極的に取り組めたとする生徒が多く、教職員の多感な青年期への声掛けと動機付け等、取組の成果が表れている。 ・特にボイスシャワーの取組は、生徒を承認し、励ますことができ、家庭や地域社会とのコミュニケーション力の向上につながる。 ・様々な教育活動において、自分に求められている役割や責任を事前に確認できる機会、事後の振り返りの中で達成度を自己評価・相互評価できる機会を設定することが、生徒一人一人の成長実感を高めていくことにつながる。一層の工夫改善を期待している。
イ	（学力の定着） 教師による授業改善及び生徒による学習改善の充実を図り、確かな学力を育成する。	・相互授業参観に積極的に取り組んだ教員 80% ・他教科等の授業参観を通して授業改善に努めた教員 80% ・主体的・対話的で深い学びを実践している教員 80% ・「授業の内容がよくわかる」と評価する生徒 80%以上。 ・授業を通して教科の興味、関心が高まったと評価する生徒 80%以上 ・授業において I C T機器を効果的に活用している教員 80%以上 ・I C T機器を効果的に活用して学習をする生徒 80%以上	A	A	・相互授業参観については、全教員が積極的に取り組むように改善をお願いしたい。 ・他教科の授業を参観することにも意味があり、授業改善につなげることができる。 ・学習主体である生徒の動機を高めるためにも、学ぶ意義・有用性が伝わるような授業改善が求められるように思う。ICT 機器は、重要な学習ツールではあるが、授業における「機器の使いどころ」に工夫が求められるように感じる。 ・教材の工夫、生徒が主体となる取組は授業見学の際に伝わってきましたが、熱心な先生がいる一方で、聞き取りにくい授業があると子どもから聞いた。

様式第5号

ウ	(進路目標の実現) キャリア教育の実践等を通して自己理解を深め、生徒一人一人の進路実現を図る。	・「進路情報の提供が適切」と答える生徒 80%以上、保護者の割合 70%以上 ・進路指導に関して家庭と連携できていると答える生徒 80%以上、保護者 70%以上 ・自らの進路実現に向かってチャレンジできていると答える生徒 80%	A	A	・昨年度よりも、進路の情報の提供の連携が取れている。制度と価値観が変化する時代においてこそ生徒と保護者と学校が進むべき道にある信念を共有してほしい。 ・進路について、生徒が家庭で対話することはとても大切。総合的な探究として自分のキャリアを捉えることもよい取り組みである。 ・特に高校は先生の励ましや助言が生徒の新たな可能性を開くこともあり、生徒に寄り添い未来設計図作成の支援をお願いしたい。
エ	(信頼される学校) ＜安全＞ 学校安全3領域(生活・交通・災害)の意識を高め、心身の健康や安全に留意した学習環境の充実を図る。 ＜職員＞ 教職員の資質向上や危機管理の意識啓発及び働き方改革の推進を図る。 ＜広報＞ 学校の理解促進に向け、効果的な情報発信を図る。	・悩みや不安を話す人や機会があると答える生徒 80%以上 ・いじめ予防、早期対応に努めた教職員 100% ・重大な交通事故件数 0 件 ・体罰、セクハラ等の不祥事件数 0 件 ・交通事故前年度比 10%以上の削減 ・地震や暴風警報発令時等の登校基準を把握していると答える生徒・保護者 80%以上 ・施設、設備不具合に起因の事故、けが 0 件 ・「校舎内外の美化に積極的に取り組んでいる」と答える生徒 80%以上 ・定時退勤や時間外業務の縮減を意識する教職員 80% ・学校の情報配信が適切であるとする保護者 80%	B	B	・学校に近い交差点で街頭指導をする機会があるが、西高の生徒をはじめ近隣高校の生徒たちは交通マナーをきちんと守り、気持ちの良い挨拶もできるので好感が持てる。 ・生徒の事故や指導事案はいつ起こるかわからないので、今後とも予防と適切な対応をお願いしたい。 ・定時退所や時間外業務の縮減を意識する教職員が大幅に増えた。働き方改革については生徒と先生方にとって、より良い学校体制を目指し、取り組みを進めてほしい。 ・教員の働き方改革、コンプライアンス関係の諸制度や研修など組織運営上はありがたいことだが、一方で職員間の希薄化、無機質化が進むのではないかとという危惧もある。
オ	(地域との連携) コミュニティ・スクール事業など、地域資源を活用した生徒の成長の機会の充実により、地域に信頼される学校づくりを推進する。	・コミュニティ・スクール事業や探究活動が自分のためになった、と感じる生徒の割合 70% ・学校運営協議会の協議内容を学校運営に活かす。 ・地域と連携した教育活動をしていると感じられる保護者の割合 70%	B	B	・地域との連携の場、教育活用の場として、武道場の利活用をよりお願いしたい。良い施設なのでもったいないと感じた。 ・コミュニティ・スクールの委員の生徒が日知塾へ参加するようになってきた。子ども食堂にも、栄養士希望の生徒が自治会の役員を訪ねて来た。地域資源として活用できている。 ・西高生は西益津自治会主催の祭り発表の場や、「子ども食堂」にボランティアスタッフとして参加するなど地域の活動に協力的で大変ありがたい。学校生活に支障のない範囲で連携を深めたい。